

・金属工作機械

1．企業経営動向（需要、生産・設備稼働、企業収益、財務）

(1)需要

平成15年の受注額（出典：（社）日本工作機械工業会統計）は8,511億円、対前年度比25.9%増と3年ぶりに増加した。内需については、自動車産業向けや半導体製造装置といったIT関連産業向けを中心に増加し、4,416億円、対前年度比26.1%増と3年ぶりの増加となり、外需についても、中国を中心としたアジア向けが増加し、4,095億円、対前年度比25.8%増と3年ぶりの増加となった。

(2)生産・在庫

平成15年の生産額（出典：経済産業省生産動態統計）については、受注の増加基調を受け、6,938億円と対前年度比18.6%増と3年ぶりの増加となった。

在庫（出典：経済産業省生産動態統計）は、受注の増加基調を受けて生産が後追い回復しているため、減少傾向にある。

(3)企業収益

平成15年度は、受注は大幅に増加したため、上場している主要企業4社をはじめ、多くの企業で増収となり、黒字決算となった。

（社）日本工作機械工業会調査の「工作機械工業経営状況調査 - 2003年度上期 - 」について、調査対象23社を連結ベースで見ると売上高が前期比19.3%増となり、営業利益率は5.6ポイント増、経常利益率は6.2ポイント増、当期利益率は3.9ポイント増となった。

2．設備投資動向（15年度見込み、16年度計画）

(1)平成15年度実績見込み

平成15年度は、調査企業12社合計で58億円となった。これは56億円であった平成14年度に比べ3.2%増である。

目的別では、研究投資（50.6%）及び合理化投資（17.9%）のウェイトが高くなっている。

(2)平成16年度計画

平成16年度計画は、調査企業12社合計で120億円と計画されている。

これは58億円であった平成15年度に比べ106.8%増である。

目的別では、研究投資、合理化投資、生産能力投資は依然として大きなウェイトを占めているが、研究開発において10ポイント以上、更新・維持において6ポイントと大きく減少したのに対し合理化投資における増資のほか、環境保全への投資が増加している。

3．長期資金調達・運用動向（長期資金運用動向、長期資金調達動向）

(1)長期資金運用動向

調査企業8社において、平成15年度は平成14年度に比べ、設備投資資金、投融資額は減少したが、短期資金への振替については9倍以上増加した。

平成16年度計画は平成15年度に比べ、設備投資資金及び投融資額が増加し、短期資金から振り替えられる計画になっている。

(2)長期資金調達動向

平成15年度は平成14年度に比べ、内部資金が減少していながらも、借入を再開した。

平成16年度計画は平成15年度に比べ、内部資金が増加し、借入金の返済を進める計画になっている。

一般機械

